

## 生体牛の評価の試行結果(ハンガリー)【暫定版】

### 生体牛のリスクの総括(ハンガリー)

#### <侵入リスク>

	1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-
生体牛	非常に低い	高い	高い	高い	中程度
肉骨粉	高い	高い	高い	高い	不明
全体	高い	高い	高い	高い	不明

#### <暴露・増幅リスク>

暴露・増幅リスク	1986	1990	1997	2001	2007
	中程度	低い	非常に低い	無視できる	

#### <サーベイランス>

1989年からパッシブサーベイランス、2001年3月よりアクティブサーベイランスを開始。

臨床的に疑われる牛(全ての月齢)、生前検査で臨床症状を示す牛(24ヵ月齢超)、緊急と畜牛(24ヵ月齢超)、死亡牛(24ヵ月齢超)、通常と畜牛(30ヵ月齢超)がサーベイランス対象となっている。

BSE認知プログラムは1990年代から存在し、関係者への研修なども積極的に行われている。

母集団数 不明

サーベイランスの成績					
年次	通常と畜牛	死亡牛	不慮の事故による と畜牛	臨床的に疑われる牛	合計
2004	81,461	12,562	2,479	62	96,564
2005	67,864	13,378	2,485	38	83,765
2006	67,440	13,794	2,581	37	83,852

## 生体牛の侵入リスク(ハンガリー)

(カッコ)はトン数、  
<カッコ>は金額(千ドル)

			1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-	合計
			輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数
輸入実績	英国	回答書	57				457	514
		貿易統計						
	欧州(中程度汚染国)	回答書	340	1,038	7,080	5,094	3,399	16,951
		貿易統計	(40.28)	471+(75.513)	7,600	3,847	3,874	15,792+(115.793)
	欧州(低汚染国)	回答書	2	29,633	6,377	58,185	22,105	116,302
		貿易統計		324	5860+<666>	58,571	110,376	175,131+<666>
	米国	回答書						
		貿易統計			28	34		62
	カナダ	回答書						
		貿易統計		7	9			16
その他( )	回答書							
	貿易統計							
合計	回答書	399	30,671	13,457	63,279	25,961	133,767	
	貿易統計	0+(40.28)	802+(75.513)	13,497+<666>	62,452	114,250	191,001+(115.793)+<666>	

		1986-1990		1991-1995		1996-2000		2001-2005		2006-		合計	
		輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数	輸入頭数
暴露要因となった可能性のある輸入牛※	英国	57	5.7							457	0.46	514	6.16
	欧州(中程度汚染国)	340	3.4	1,038	10.38	7,080	70.8	5,094	50.94	3,399	3.40	16,951	138.92
	欧州(低汚染国)	2	0.002	29,633	296.33	6,377	63.77	58,185	581.85	22,105	22.11	116,302	964.06
	米国												
	カナダ												
	その他( )												
	合計	399	9.10	30,671	306.71	13,457	134.57	63,279	632.79	25,961	25.96	133,767	1,109.13
		非常に低い	高い	高い	高い	中程度							

※ ハンガリーのレンダリングおよび投餌給餌システムでは、BSE感染国から輸入を行う場合の国内の牛への暴露を避けることが可能であることから、回答書では暴露要因となった可能性のある輸入牛はないとされているが、判定には輸入実績の数値を使用した。

注) 輸入実績及び暴露要因となった可能性のある輸入牛については、加重係数を設定した期間の輸入頭数のみを記載している。

## 肉骨粉の侵入リスク(ハンガリー)

<カッコ>は金額(千米ドル)

			1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005 <sup>※1</sup>	2006- <sup>※1</sup>	合計
			輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数
輸入実績	英国	回答書				452		451
		貿易統計			8	4,448	5,527	9,983
	欧州(中程度汚染国)	回答書	3,653	4,431	13,579	12,675		34,338
		貿易統計	900	2,092.0	14,028	53,578	18,137	88,735
	欧州(低汚染国)	回答書			3,338	515		3,853
		貿易統計			48,532+<525>	9,053	5,003	62,588+<525>
	米国	回答書				126		126
		貿易統計						
	カナダ	回答書						
		貿易統計						
	その他( )	回答書						
		貿易統計						
	合計	回答書	3,653	4,431	16,917	13,768	データ無し	38,770
		貿易統計	900	2,092	62,568+<525>	67,079	28,667	161,306+<525>

		1986-1990		1991-1995		1996-2000		2001-2005 <sup>※1</sup>		2006- <sup>※1</sup>		合計	
		トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算
暴露要因となつた可能性のあるMBM <sup>※2</sup>	英国							452	4.52			451.6	4.52
	欧州(中程度汚染国)	3,653	328.60	4,431	182.50	13,579	286.30	12,675	126.80			34,339	924.20
	欧州(低汚染国)			0	0.001	3,338	33.40	515	5.15			3,853	38.55
	米国							126	0.002			126	0.00
	カナダ												
	その他( )												
	合計	3,653	328.60	4,431	182.50	16,917	319.70	13,768	136.47			38,770	967.27
		高い		高い		高い		高い		不明			

※1) 回答書は2005年以降のデータ無し。

※2) BSE感染国からのMBMの輸入に関しては、ハンガリー国の規則に基づき、牛用飼料としての使用を排除することができることから、回答書では「暴露要因となつた可能性のある肉骨粉はない」とされているが、判定には輸入実績の数値を使用した。

注) 輸入実績及び暴露要因となつた可能性のある肉骨粉については、加重係数を設定した期間の輸入トン数のみを記載している。

## 生体牛の暴露・増幅リスク（ハンガリー）

### ○飼料給与

1990年 反すう動物たん白質の反すう動物への給与禁止  
 1997年 ほ乳動物たん白質の反すう動物への給与禁止  
 2001年 全ての動物性タンパク質（乳および乳製品は除く）の反すう動物への給餌禁止  
 2001年 死亡動物およびと畜された反すう動物由来MBMの（反すう動物以外の）家畜への給餌禁止  
 2003年 全ての動物性タンパク質（魚粉、加水分解されたタンパク質、第二リン酸カルシウム、第三リン酸カルシウムを除く）の他の家畜への給餌禁止

### ○SRMの利用

利用実態については、2000年以前の正確なデータは入手できないが、牛以外の飼料及びヒトの食用に回っていたと推察される。  
 2001年以降は、レンダリング後、焼却している。

### ○レンダリングの条件

1982年1月～ 農業省法規によって、動物性廃棄物のレンダリングはバッチ工程（最低133℃、3気圧、20分）が定められる。  
 1997年7月～ 高リスク部位は、動物衛生法により、加工前に原材料を5 cmに粉砕すること、また粉砕されたものは、133℃以上、20分間以上、3気圧で処理することが定められる。  
 2004年5月～ EUの法規に従って、他の方法も可能となる。

### ○交差汚染防止対策

2001年以降、施設の専用化が進んでいる。  
 2001年の時点では、SRMおよび死亡個体は、専用の施設のみで加工されている。  
 反すう動物への給餌が許可された飼料はすべて検査施設における試験によって管理されており、フィードバン規則の遵守が監視されている。

## <暴露・増幅リスク>

	飼料給与の状況	SRMの利用、レンダリングの条件、交差汚染防止対策	判定
1986-1989年	特に規制無し		中程度
1990-1996年	反すう動物たん白質の反すう動物への給与禁止	SRMは牛以外の飼料及びヒトの食用に回っていたと推察される。 レンダリング条件は、1982年より133℃/20分/3気圧	低い
1997-2000年	ほ乳動物たん白質の反すう動物への給与禁止		非常に低い
2001年-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての動物性タンパク質（乳および乳製品は除く）の反すう動物への給餌禁止</li> <li>・死亡動物およびと畜された反すう動物由来MBMの（反すう動物以外の）家畜への給餌禁止</li> <li>・全ての動物性たん白質の他の家畜への給与禁止（2003年）</li> </ul>	SRMはレンダリング後、焼却処分 交差汚染防止対策は、適切に取られている。	無視できる